

日韓の少子化問題 ——教育・雇用の側面から

巖 秀珍

日本と韓国は、少子化の問題を様々な対策を通じて状況を改善しようとしている。本稿では、日本と韓国の少子化の現状、子育ての経済的負担、人々が望んでいる少子化に対する政策、就職の不安定さが人々の結婚に及ぼす影響、少子化を克服した事例と克服できた理由について論じる。

日本と韓国はこれまで様々な少子化対策を実施してきたが、効果があったとは考えにくく、特に韓国の場合、出生率が OECD 諸国の平均以下、最低水準を記録している。また、このような少子化の現象が続く場合に、労働人口が減少してしまう。また、老人層の増加で扶養を必要とする人が増える。本稿では、こうしたことから一人が負担する税金が高くなるという少子化による問題について論じている。また、これまでの政策の問題点を把握しながら改善すべきことあるいは、考え直すべきことを指摘している。